

土木学会 建設マネジメント委員会 研究成果発表会(2010年度) 報告

2010年9月13日
研究問題検討小委員会

1. 目的

土木学会 建設マネジメント委員会(委員長:小澤 一雅)では13の研究小委員会を設け(内1つは特別小委員会)、建設マネジメントに関する研究を行っている。これらの研究成果の普及に資することを目的とし、2009年度の研究小委員会の活動から、次表に示すテーマに関して発表会を開催した。

2. 概要

研究成果発表会の開催日時と発表プログラムは下表の通りである。

日 時:平成21年8月2日(月)13:00~17:00

場 所:(社)土木学会 講堂

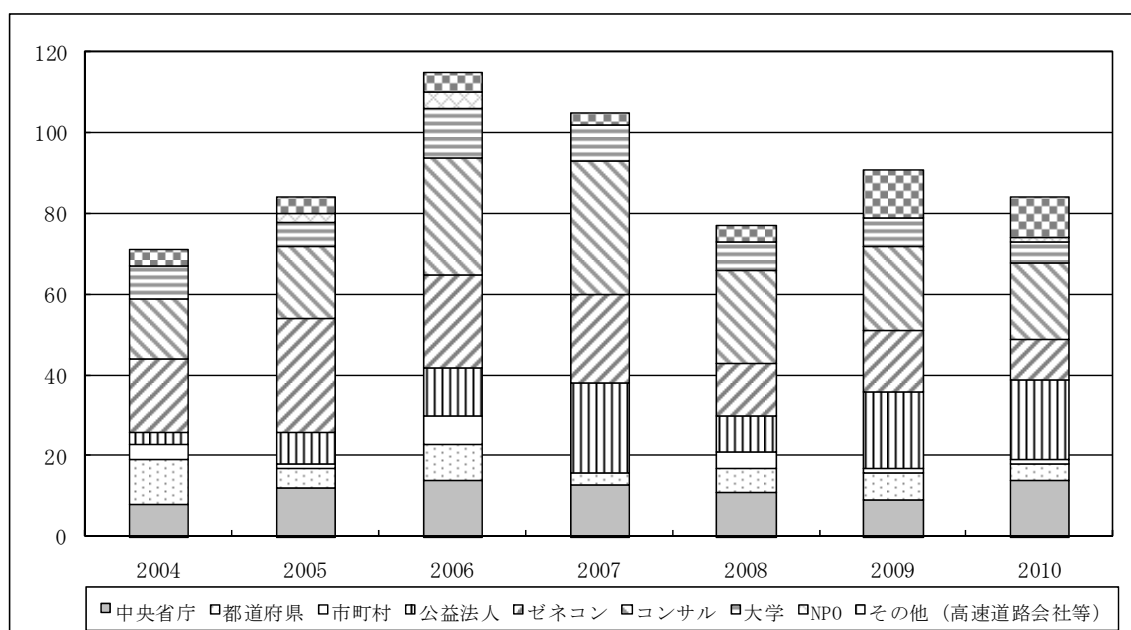
2010年度 建設マネジメント委員会 研究成果発表会 発表プログラム

研究成果発表会(2010年度)		
時間	発表テーマ	発表担当研究小委員会
13:00~13:10	開会の挨拶	建設マネジメント委員会:小澤一雅 委員長
13:10~14:00	インフラ関連事業へのPFI/PPP導入のための技術的および制度的課題とその解決策について	インフラPFI研究小委員会 小委員長:宮本和明(東京都市大学) 発表者:大島邦彦((株)熊谷組) 発表者:北詰恵一(関西大学) 発表者:渡会英明((株)建設技術研究所)
14:00~14:55	日本大手建設企業を対象とした公共工事の入札戦略に関する調査報告	公共調達制度評価特別小委員会 小委員長:滑川達(徳島大学) 発表者:森本恵美(徳島大学)
14:55~15:10	休 憩	
15:10~15:50	バイオマスタウン構想にもとづく地方都市草津市の持続可能なまちづくりと地域マネジメントに関する実証的研究	地域マネジメント研究小委員会 小委員長:春名攻(立命館大学) 発表者:山田幸一郎(CAP)
15:50~16:20	契約に基づくプロジェクト遂行における第三者(専門技術集団)の必要性と三者方式実現への方策	公共事業三者方式実現研究小委員会 小委員長:草柳俊二(高知工科大学) 発表者:草柳俊二(高知工科大学) 発表者:五艘隆志(高知工科大学)
16:20~16:50	地方における公共工事の入札契約方式に関する研究(中間報告)	地方における公共工事の入札契約方式研究小委員会 小委員長:牧角龍憲(九州共立大学) 発表者:牧角龍憲(九州共立大学)
16:50~17:00	閉会の挨拶	研究問題検討小委員会:滑川達 小委員長

3. 参加状況

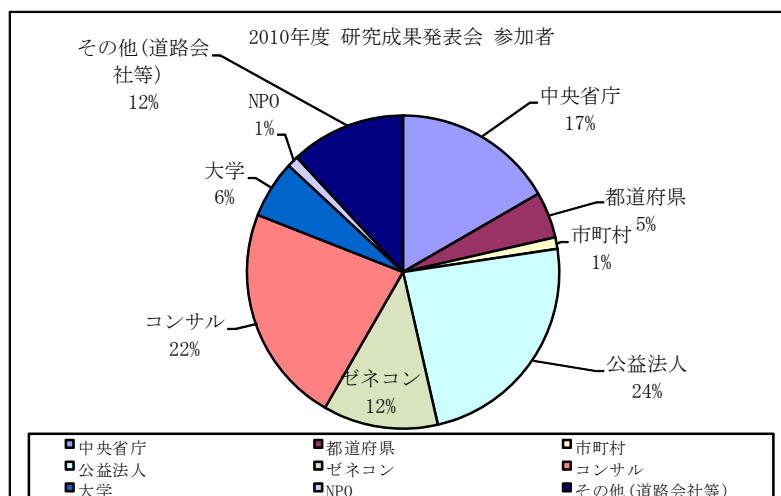
成果発表会の参加状況に関しては、事前申込（2009/07/26迄）が64名、当日参加等も含めた最終的な参加人数が84名と昨年度より若干減少した。

区分	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
中央省庁	8	12	14	13	11	9	14
都道府県	11	5	9	3	6	7	4
市町村	4	1	7	0	4	1	1
公益法人	3	8	12	22	9	19	20
ゼネコン	18	28	23	22	13	15	10
コンサル	15	18	29	33	23	21	19
大学	8	6	12	9	7	7	5
NPO	0	2	4	0	0	0	1
その他（高速道路会社等）	4	4	5	3	4	12	10
合計	71	84	115	105	77	91	84



2010年度

区分	参加者数
中央省庁	14
都道府県	4
市町村	1
公益法人	20
ゼネコン	10
コンサル	19
大学	5
NPO	1
その他(道路会社等)	10
合計	84



— 参加状況の推移 —



－ 発表会当日の様子 －

4. 発表会に向けた取り組み等について

(1) 発表会に向けた取り組み

- 本年度は、発表応募のあった5つのテーマ（インフラ PFI、地域施設マネジメント、公共事業三者方式実現、地方における公共工事の入札契約方式、公共調達制度評価）の研究成果に関して発表会を開催した。
- 発表会の約1ヶ月前には、建設マネジメント委員会のホームページに開催プログラムを掲載するとともに、各研究小委員会の講演用テキストを適宜、掲載した。
- 本年度も会場参加者へ成果発表会に対するアンケート調査を実施した。（調査結果は後述）

(2) 発表会を終えて

- アンケート調査結果によれば『成果発表会に参加し、大変参考になったおよび参考になった』と回答された方が約 75%を占め、多くの参加者の方に満足戴けたものと考えられる。
- 参加者の年齢構成を見ると、30代～50代の方が約 80%を占めるのに対し、20代の方は 0%であった。建設マネジメント委員会の研究活動を活性化するためにも、若手技術者の参画に向けた PR も重要と考える。
- 3. 参加状況に示したとおり、参加者が昨年度より若干減少した。次年度は、今年度以上に広報活動を広く展開し、建設業界や国、自治体等への周知を図る必要があると考える。
- 今回は、「公共調達シンポジウム」と 2 日連続にて開催したが、公共調達シンポジウムでのアンケート結果では、『都合が良かった』と回答された方が約 70%である一方、一部では 2 日連続開催について『2 日連続では予定を確保しづらい』等の意見もあったため、2 日連続開催については、来年度以降継続していくか検討が必要であると考えられる。
- 今回の発表では、5つのテーマを発表して戴き昨年度の 7テーマよりも減少したが、『発表会の発表時間の長さはちょうどよかった』と回答された方が約 70%をこえていることから、テーマ数としては妥当であったと考える。

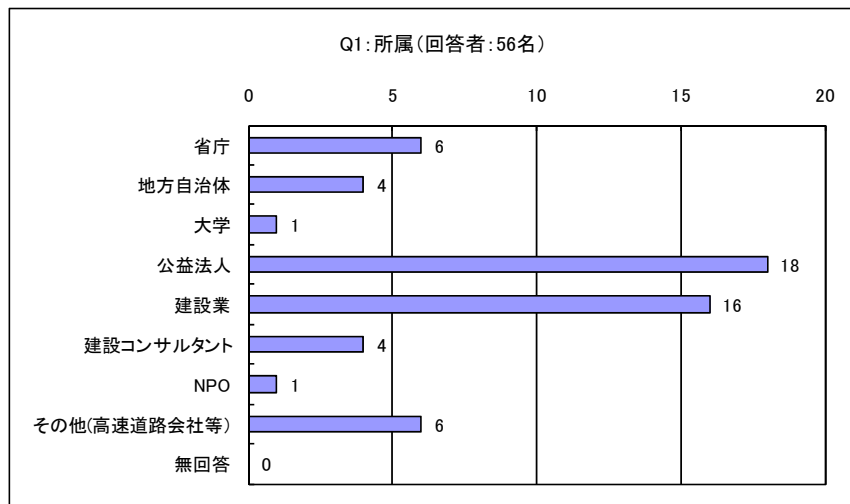
(3) 今後の方向性

- 先述のとおり、昨年度に引き続き、成果発表会に対するアンケート調査を実施した。本調査で得られた成果発表会に対する意見等を踏まえ、今後の委員会活動に反映できるようにフィードバックしたいと考える。(ex. 研究小委員会の成果の公表を含めた情報発信 等)
- 研究成果発表会は、昨年度同様土木学会（講堂）において、多岐に渡る研究テーマをまとめて発表する形で開催したが、将来的には個別の研究テーマ毎に成果発表会等の開催やニーズの高い自治体等での研修会（有料）を開催するなど、活動を拡大していくことも必要と考える。
- 研究テーマの発表&質疑応答のみならず、パネルディスカッションやポスターセッションも導入するなど、参加者にとってより有意義となる内容構成を考えていく必要がある。

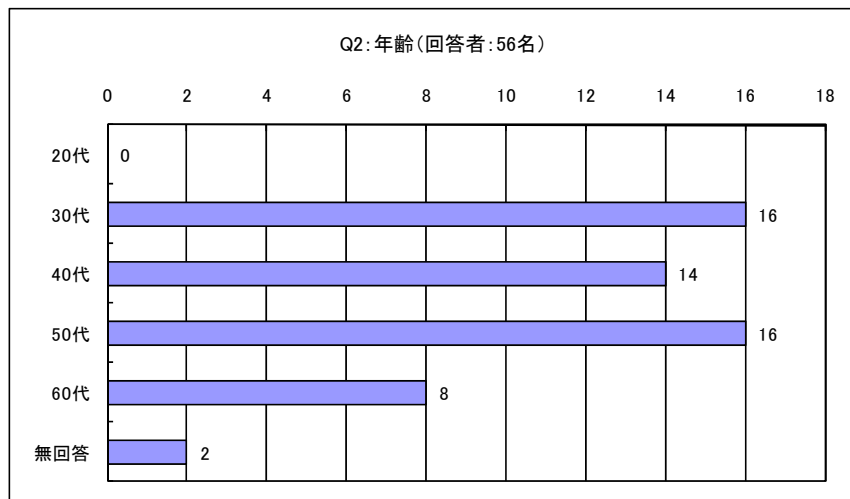
以 上

《 研究成果発表会 アンケート調査結果 》

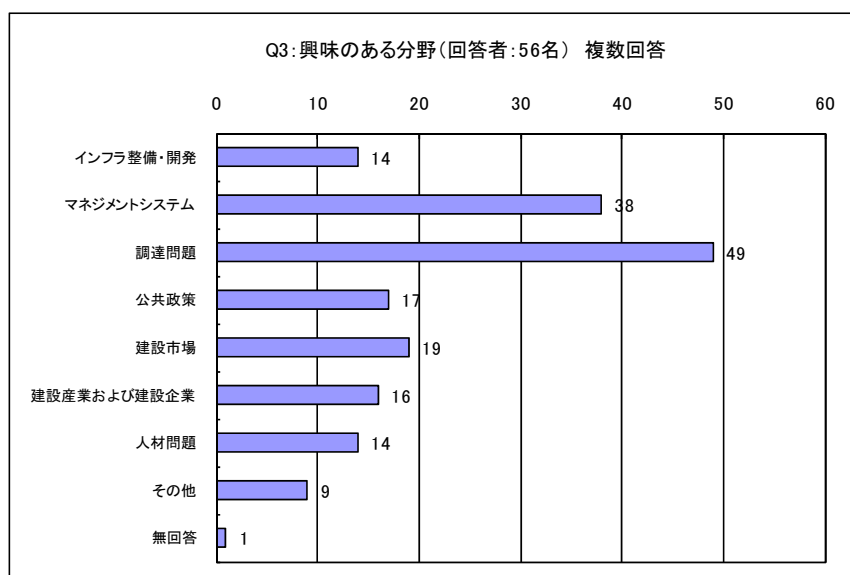
(1) 回答者の所属構成



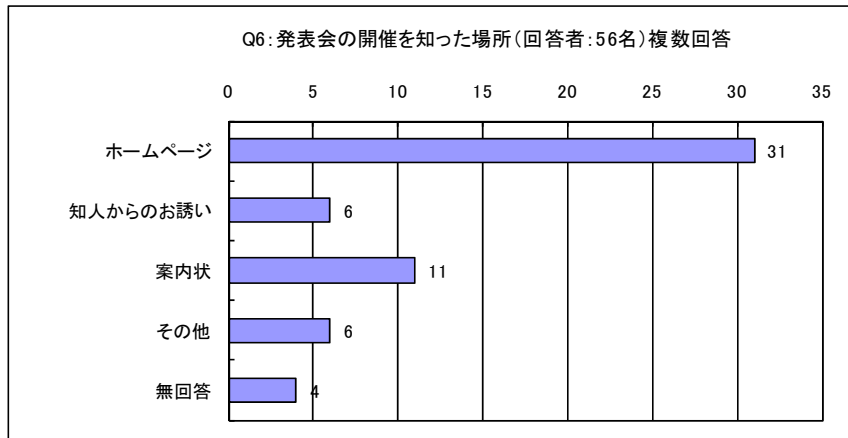
(2) 回答者の年齢構成



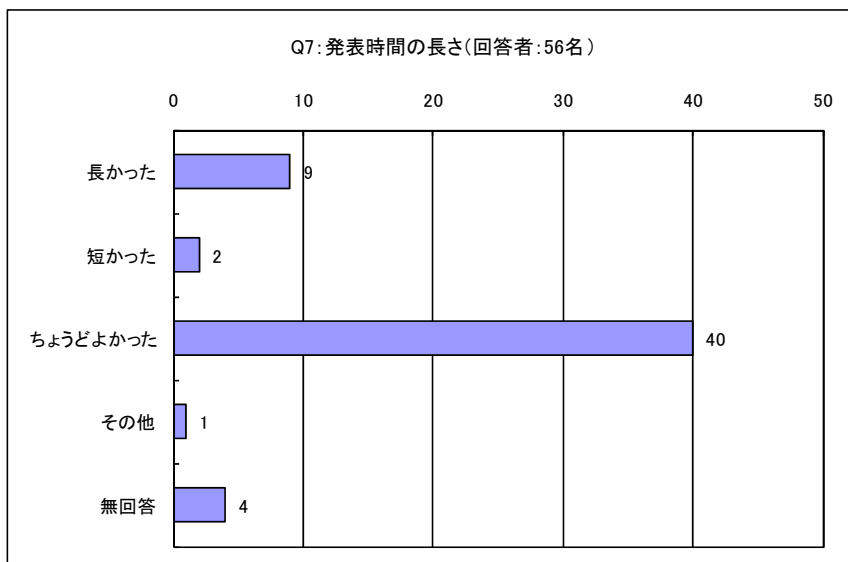
(3) 興味のある分野 (大分類)



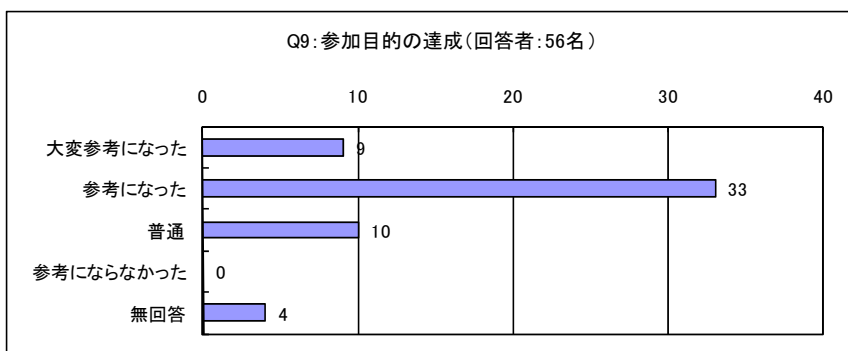
(4) 開催を知った場所



(5) 発表時間の長さ



(6) 参加目的の達成



《 公共調達シンポジウム アンケート調査結果より掲載 》

■研究成果発表会と公共調達シンポジウムの2日連続開催へのアンケート結果

